



福島県いわき市立玉川中学校

学校だより

たまたがわ ③

発行責任者 校長 丹野 英雄

第3号 令和6年6月14日発行

【校章の由来】

中央の円は玉川地区の和と円満さを、縦の2本線は学区内を流れる2つの川を表しています。清い川の流れの水しぶきを受け、発展する玉中を象徴するデザインになっています。

5月下旬から6月中旬にかけて市中体連陸上大会ならびに総合大会が行われました。陸上では男子共通800mに出場した3年生が第3位に入賞し県大会進出を果たしました。男子共通3000mに出場した2年生は他校の3年生と競い合い第7位に入賞する健闘を見せました。水泳では男子1500m自由形、女子200m背泳ぎで第3位、男子400m自由形、女子100m背泳ぎ、女子400m自由形で第4位、男子200m個人メドレーには2名が参加し第5位と第7位、女子200m自由形で第6位、男子200m背泳ぎ、男子100mバタフライ、男子400mリ

レー、男子400mメドレーリレーで第8位入賞を果たしました。なお、上位6位までの入賞者は県大会の出場権を獲得しました。また、卓球では男子個人ダブルスで1組が第3位に入賞し、県大会へ駒を進めました。

県大会に出場する選手の皆さんには、いわき市の代表として更なる高みを目指してほしいと思います。また、県大会への出場はかなわなかったものの力の限りを尽くして競技した選手の頑張りに心から拍手を送ります。さらに、子供たちを様々な面から支えていただいた保護者の皆さんに厚く感謝申し上げます。



互いに譲らぬ攻防の卓球



女子バスケの熱い攻防



試合直前の野球部の選手たち



ボールを見定める本校選手



本校選手によるトス



手に汗握る攻防



男子バスケ



陸上での受賞



水泳でのリレー



ソフトテニスのメンバー



激しいボールの奪い合い

一緒に競技できた友よ…ありがとう！

ありのままの自分を、ありのままに受け容れている？

自分を「かけがえのない存在」だと感じることができるのでしょうか。そう感じることができる人は、自尊心が身に付いている人だと言えます。近年、日本の子供の自尊心は、世界中でも特に低いと言われていいます。その背景には、幼い頃の大人からの扱われ方や謙虚さを美德とする日本人独特の文化が影響しているとの指摘もあります。13歳から29歳の若者を対象に2017年に実施した意識調査において、「自分自身に満足しているか」との問いに、アメリカ人の87%が「そう思う、どちらかといえばそう思う」と答えたのに対し、日本人は45.1%しかありませんでした。韓国、イギリス、フランス、スウェーデン、ドイツなどの他国でも平均は80%近くでした。また、「長所があると感じているか」との問いに、アメリカ人の91.2%が肯定的な答えだったのに対し、日本人は諸外国中で一番低く62.3%でした。

世界のどこの国や地域でも生まれてから幼稚園・保育所に行くまでの間、つまり社会に属する前までは、周囲が抑えつけない限り、子供はみんな自尊心が高く、初めてのことに果敢に挑戦し、自信に満ち溢れた行動をします。3歳くらいまでは、親も祖父母も子供を誉めて伸ばすからです。ところが、日本では、幼稚園・保育所や学校に属したり勉強を始めた途端に、自尊心が低くなっていきます。親が子供に周囲と同じようにできることを求めてしまったり、親自身も他の母親や父親と自分を比較してしまったりするからです。「這えば立て、立てば歩めの親心、歩めば勉強せいと言ひ」という川柳があります。生まれた頃は、あるがままの我が子が愛おしく、この上ない存在と受け容れていたのに対し、我が子が成長するにしたがって、より多くのことを求めてしまう切ない親心を表していると言えるでしょう。

ところで、幼い子供は、ヒーローごっこをする時、必ず自分がヒーロー役をしたがります。「今日は、ボクが怪獣をやるよ！お父さんがウルトラマンになってボクをやっつけて！」とは言いません。いつの時代も、どんな

子供も、カッコいいウルトラマンに自分を投影し、正義に満ち溢れ、万能なウルトラマンになりたがります。女の子ならセーラームーンやプリキュアですかね。しかし、真実の自分は、ウルトラマンやプリキュアでないことを経験を通して学んでいきます。「ウルトラマンだと思っていた自分」と「ウルトラマンではない真実の自分」のギャップに気づきます。そして、成長の過程で、「ウルトラマンではない自分」を受け容れる準備をします。

私たちは誰もがみんな、残念ながらウルトラマンではありません。上手い出来ないこともたくさんあるし、誤解されることも、嫌われることもあるのが当たり前です。いつも優しく穏やかな自分でいられるわけではなく、人を恨んだり妬んだりひがんだりする自分もいます。自分の中に存在する「目をそらしておきたい、なかったことにしておきたい、ウルトラマンではない自分…」受け容れがたい自分を何とか受け容れようと、子供はもがきながら成長します。そのような時、そばにいる親や大人が「ありのままの自分でいいんだよ」というメッセージを発し続けてあげると、子供は「ウルトラマンではない自分」を受け容れることができ、自尊心も再び高まってきます。

外見、性格、長所や短所、学業成績、運動能力、ハンディキャップなど、全てひっくるめて「弱い自分も、ダメな自分も、自分自身だ。あるがままの自分でいいんだ。」と受け容れた子供は、何事に対しても積極的に取り組み、豊かな体験を積み重ねていく中で、さらに自信をつけ、自分ばかりでなく他者をも受け容れていくことができるようになります。つまり、自尊心が高い人は、自分を大切にするだけでなく、人への思いやりを持つことができ、ますます魅力的な人になっていきます。自尊心が高い人とは、決して威張る人という意味ではなく、自分の欠点を認めつつも自分を受け容れ、人に対しても優しく、そして前向きに生きている人と言えます。「自分も他者も価値ある人だと思える」「自分も他者も好きだと思える」「自分も他者も大切に思える」全ての生徒がそういった感覚を持って生活できるように学校を挙げて支援していきたいと考えています。

【教育目標】

健康でたくましく生きる生徒
自ら進んで学習する生徒
思いやりをもち奉仕する生徒



QRコードを読み取ると本校ホームページにつながります。

〒971-8127

福島県いわき市小名浜玉川町西24番地

TEL 0246-58-6711 FAX 0246-58-6712

E-mail tamagawa-jh@city.iwaki.lg.jp